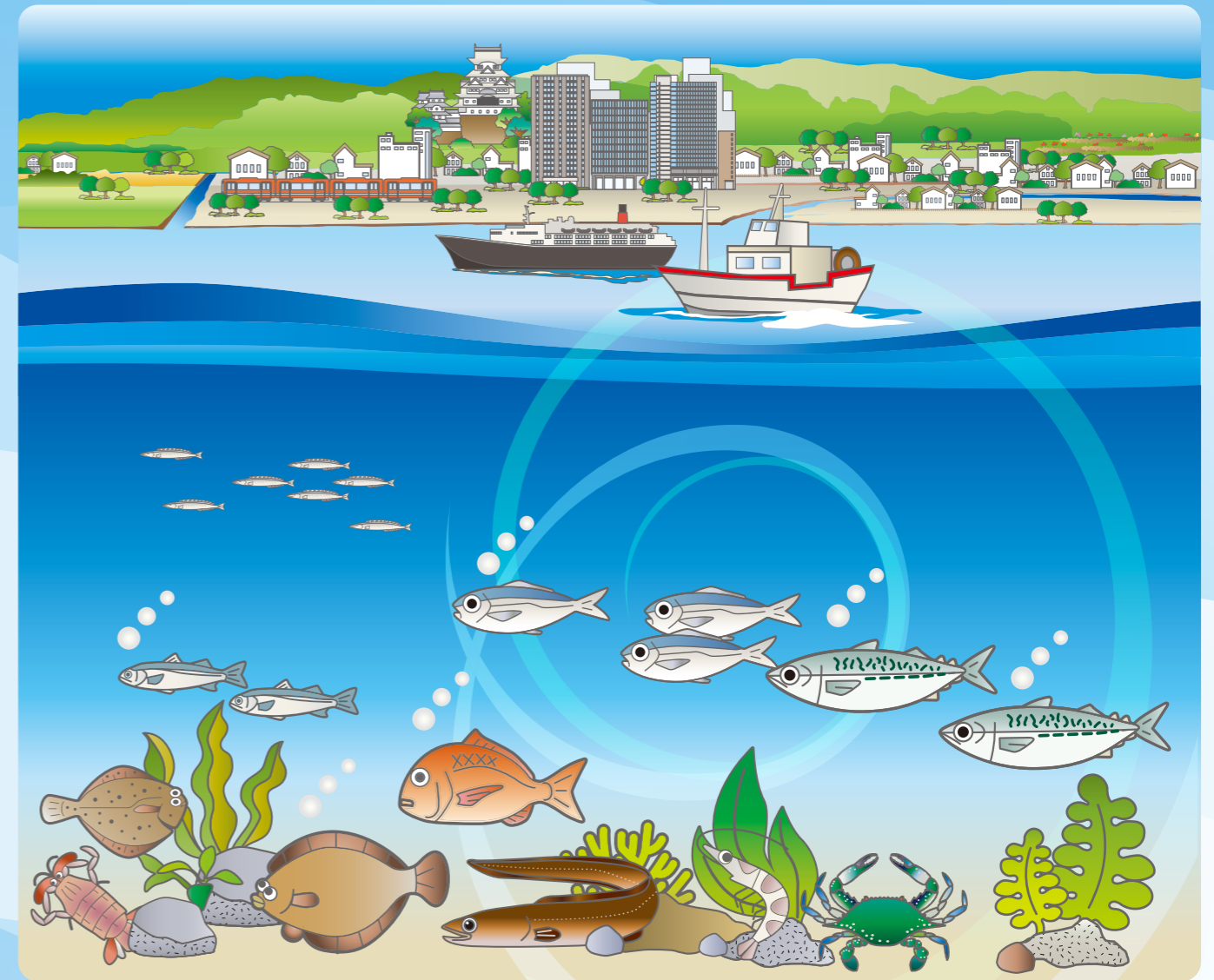
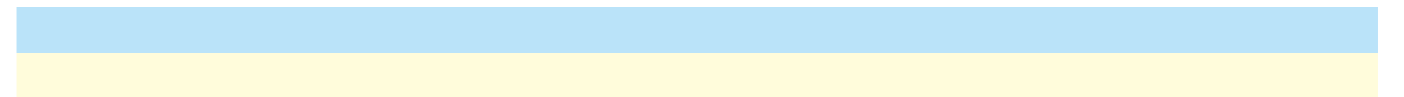
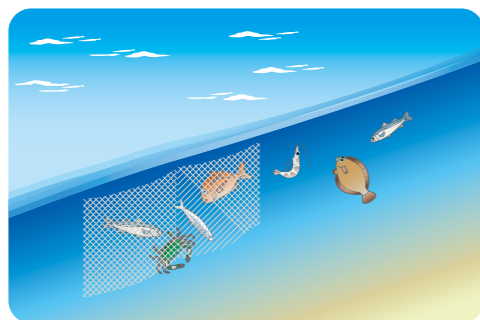
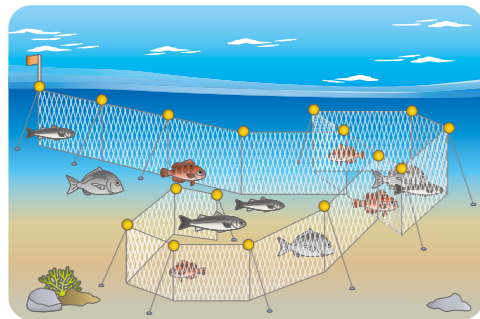
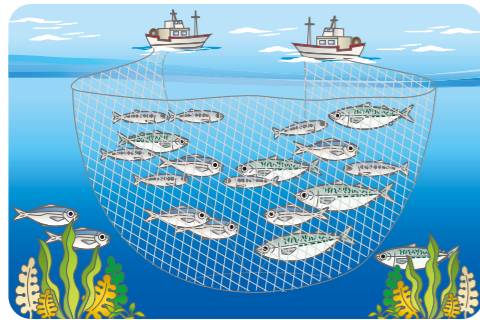
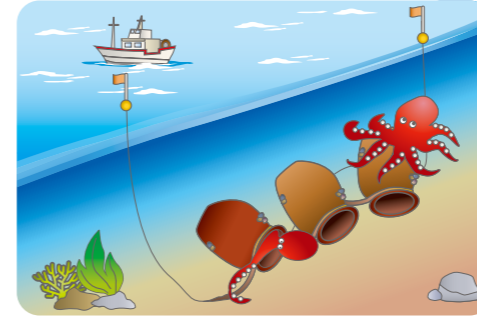
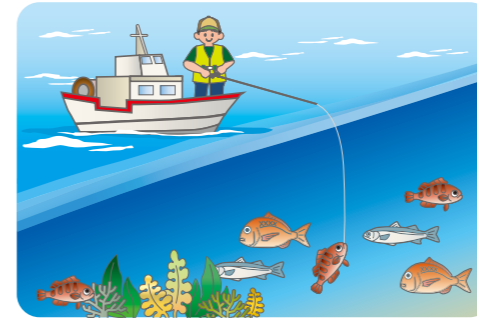


# 姫路の漁業

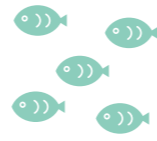
「つくり育てる漁業」をめざして



姫路市



# つくり育てる漁業



「海は広くて大きいので、いくら魚をとっても大丈夫。」と思われていました。しかし、最近になって海の資源はどんどん減ってしまいました。なぜでしょう？

- ◎ 環境破壊などで、魚が卵を産み、育つ場所が少なくなった。
- ◎ 効率よく魚が大量にとれるようになった。

このままでは、大切な海の資源がなくなってしまう。そこで、安定して海の資源を利用できるように「とる漁業」から「つくり育てる漁業」を行っていきこうという動きが強まっています。

海は広くて大きいので、国や県、市、漁業関係者で協力し、分担し取り組んでいます。



## ① 栽培漁業

自然の海では、たくさん産まれた卵も他の魚に食べられたりして、こくわすかしが育つことができません。そこで、卵を人間の手で産ませ（種苗生産といいます）、産まれたばかりの稚魚をある程度の大きさまで育ててやること（中間育成といいます）で、生き残る確率が高くなり、より多くの魚が育ちます。このように人の手で計画的に魚を産み育て、自然に放流することを「栽培漁業」といいます。



### ■ 姫路栽培漁業センター（妻鹿漁港内）

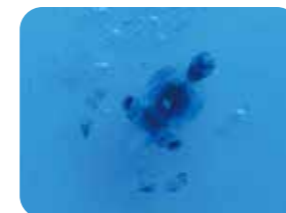
姫路市では、漁業協同組合と共同でヒラメの稚魚やガザミの稚ガニなどを中間育成して、姫路市の沿岸海域に放流しています。また、カサゴなどの種苗生産にも取り組んでいます。

### 姫路市の主な種苗放流と中間育成

魚種単位	マコガレイ (万尾)	ヒラメ (万尾)	オニオコゼ (万尾)	カサゴ (万尾)	メバル (万尾)	ガザミ (万尾)	クルマエビ (万尾)	クマエビ (万尾)	クロアワビ (万個)	サザエ (万個)	アカガイ (万個)	アサリ (kg)
平成28年度	3.0	6.0	1.0	36.0	7.5	100.0	50.0	50.0	2.2	2.4	5.0	900
平成29年度	3.0	6.0	1.0	24.0	3.0	100.0	50.0	30.0	2.2	2.9	5.0	2,000
平成30年度	3.0	6.0	1.0	24.0	12.0	100.0	50.0	50.0	2.5	2.9	4.1	1,300
備考	中間育成	中間育成	中間育成	種苗生産	種苗生産	中間育成	中間育成	中間育成	直接放流	直接放流	直接放流	直接放流

※他にも漁業協同組合が独自にいろいろな種苗を育成し、放流しています。

### ガザミの例



- ① 親のガザミから卵をとってふ化させます。
- ② ふ化した幼生は形を変えながら脱皮して成長します。



③ 稚ガニまで育成し、放流します。



④ 海で立派に成長し、漁獲されます。



## 姫路市で放流している主な種類



クマエビの子ども



クマエビ



ガザミの子ども



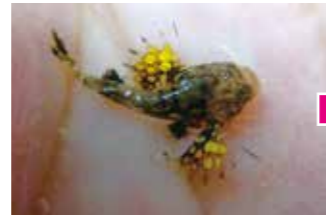
ガザミ



アサリの子も



アサリ



オニオコゼの子ども



オニオコゼ



クルマエビの子ども



クルマエビ



カサゴの子ども



メバルの子ども



マコガレイの子ども



ヒラメの子ども

## ②産卵場所や魚のすみ場所をつくる

### ■魚礁の造成

せっかく魚をたくさん放流することができても、その魚が育つ場所やすむ場所がなければ資源を維持することができません。

そこで、魚にとって重要なすみ場所を人の手で作っています。「人工魚礁」とよばれるこれらのものは、コンクリートや鉄、自然の木や石などのさまざまなものでつくられています。いずれも多くの魚の産卵や子育ての場として役立っています。



鉄製の巨大な魚礁



コンクリート製の魚礁



投石魚礁

## ③資源管理と漁場の保全

### ■資源管理

魚のすみ場所をつくって、放流を続けても、無制限にとり続けていては魚はいなくなってしまう。そこで、資源を保ちつつ漁業を続けるために「資源管理型漁業」と呼ばれる取り組みを行っています。



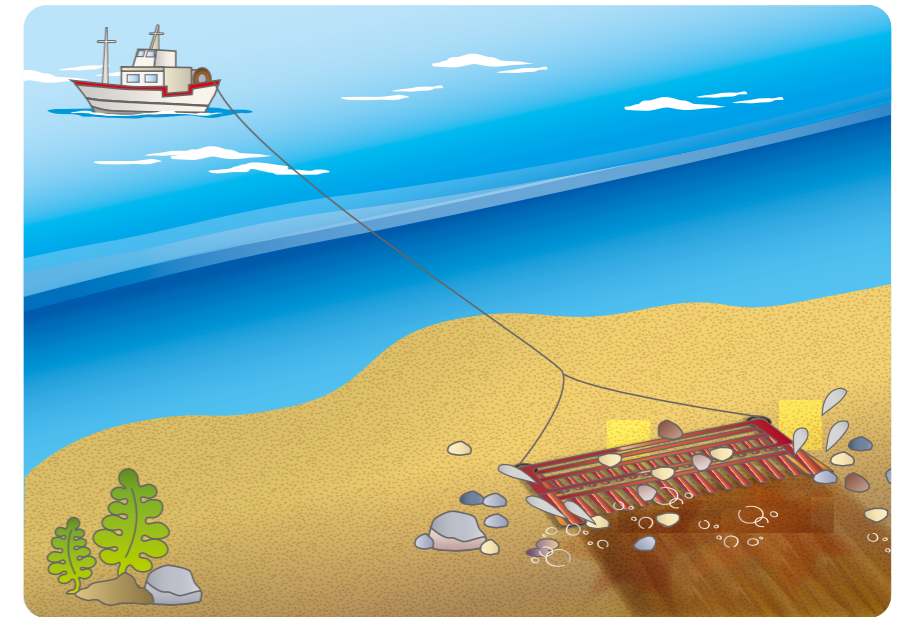
一斉休漁に取り組む様子

- 小さな魚をとってしまわないように、網の目を大きくする
- 漁業をする期間を決める
- 漁業を休む日を決める
- とる量を決める など

### ■漁場環境の保全

いくら魚を放流し、とる量を管理しても、魚を育む海の環境が悪ければどうしようもありません。川や海に捨てられたゴミは美しい海を汚すだけでなく、そこにすむ生き物に大きな被害を与えたり、漁業で使用する網を痛めたり、魚を傷つけたりします。

そこで、漁場環境を少しでも良くするため、海浜の清掃や海底ゴミ拾いをはじめ、海底耕うんという少し汚れてしまった海の底をたがやして、生き物にとってすみ良い環境に改善する方法などが行われています。



海底耕うんの図

### ■漁業者の積極的な取り組み

漁業者も積極的に種苗放流や中間育成の技術向上を目指すとともに、地産地消を推進するため、イベントの開催や直売などに取り組んでいます。

また、将来を担う子どもたちに漁業の仕組みや漁場環境の様子を学んでもらい、漁業のことを考える機会をもうけたりしています。



漁業体験見学で漁業のことを学ぶ子どもたち